

大規模災害への備え学ぶ 防災推進国民大会に多くの市民

防災意識の向上を目指す「防災推進国民大会」が27、28日に東京大学で行われた。国や防災学術連携体などさまざまな団体・企業が一堂に会した初めてのイベントに、親子連れなど多くの市民が参加。シンポジウムやワークショップなどを通じて、大規模災害への備えの重要性を学んだ。

内閣府ら実行委員会の主催で、東京大学本郷キャンパスを会場に行われた。28日には、防災減災・災害復興に関わる学会のネットワーク「防災学術連携体」と、日本学術会議が熊本地震に対する取り組み報告を行った。

日本学術会議の大西隆会長は、「多くの学会が見解を示すことで、熊本地震の構造が立体的に見える」とし、「学会間の相互研さん」をさらに重ね、地震発生メカニズムと復興への取り組みを市民の皆さんに伝えたい」と述べた。その後、各学会がそれぞれの取

り組み内容などを説明。その上で、文化財建造物再生へのヘリテージマネジャーの活用(松村秀一日本建築学会副会長)、崩壊・地すべりタイプ別の発生・移動メカニズムの解明(落合博貴日本地すべり学会会長)、亀裂・崩壊・堆積土砂の監視(石川芳治砂防学会前会長)などの必要性を訴えた。

大会期間中はこの他、建設業界の取り組みや防災・減災のメカニズムなどを市民に分かりやすく伝えるイベントが行われた。全国建設業協会のパネル展示「つくる！なおす！まもる！地域建設業の取り組み」、日本生活協同組合連合



防災学術連携体が熊本地震の取り組みを報告



人気を博した防災グッズづくり

会のワークショップ「オリジナル防災グッズづくり」などでは、多くの親子連れが楽しみながら、防災の大切さを体感していた。